



平成22年度 果樹情報 第15号

(平成22年10月22日)

福島県農林水産部研究技術室



1 気象概況 (10月1～3半旬：果樹研究所)

平均気温は、平年と比較すると1半旬が18.6 で1.0 高く、2半旬が18.6 で2.9 高く、3半旬が19.7 で4.4 高く経過しました。この期間の降水量は60.6mmで平年の123%でした。

2 土壌の水分状態 (果樹研究所)

10月14日現在の土壌水分 (草生栽培リンゴほ場：無かん水) は、深さ20cmでpF2.0、深さ40cmでpF1.8、深さ60cmでpF1.8であり、適湿状態となっています。

3 生育概況 (10月15日現在：果樹研究所)

(1) リンゴ

ア 「ふじ」の果実肥大

「ふじ」の果実肥大を暦日で比較すると、縦径79.5mmで平年比98%、横径89.6mmで平年比102%とほぼ平年並みとなっています。果実の生育日数による比較でもほぼ平年並みとなっています。

イ 「ふじ」の果実成熟

10月13日現在 (満開後161日) の「ふじ」の果実成熟は、糖度はやや高めですが、デンプンの抜けはやや遅れており、硬度やリンゴ酸は平年並みの状況となっています。

ウ 収穫期と果実品質

「ジョナゴールド」の収穫始めは10月4日で平年より5日早く、収穫盛りは10月6日で平年より8日早く推移しました。果実の大きさは平年より小さく、糖度は平年並みでした。

「陽光」の収穫始めは10月13日で平年より4日早く、収穫盛りは10月16日で平年より2日早く推移しました。果実の大きさは平年より小さく、糖度は高い結果でした。

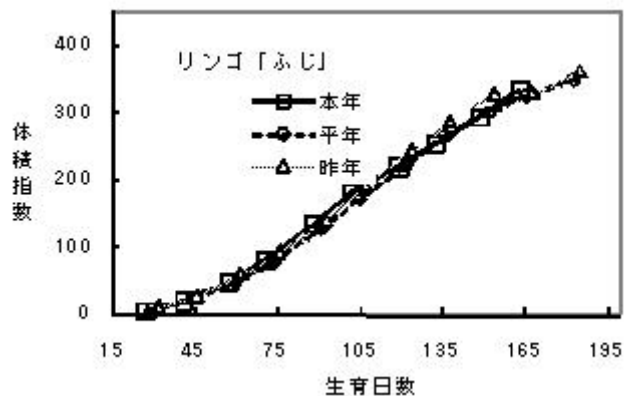


図1 果実肥大 (果実の生育日数比較)
(果樹研究所 10月15日現在)

表1 リンゴの主要品種の収穫期と果実品質 (果樹研究所調査)

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			糖度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
つがる	8/31	8/29	8/26	9/ 4	9/ 4	8/27	9/13	9/ 9	8/31	256	288	239	13.0	12.6	13.6
ジョナゴールド	10/4	10/ 9	10/ 6	10/6	10/14	10/ 8	10/13	10/19	10/15	310	371	326	13.1	13.4	13.4
陽光	10/13	10/17	10/ 7	10/16	10/18	10/11	10/22	10/19	10/15	257	341	269	15.7	14.2	14.0
王林	未	10/22	10/22	未	10/25	10/22	未	10/29	10/22	未	315	282	未	14.2	15.1
ふじ	未	11/13	11/16	未	11/15	11/16	未	11/26	11/16	未	350	346	未	15.1	15.8

注)平年値は、1976～2005年の平均値。未は未確定。

4 栽培上の留意点

(1) リンゴ

ア 「ふじ」の収穫前管理

葉摘み・玉回しは遅れないように実施してください。なお、葉摘み程度が強すぎると鮮明に着色せず糖度も低下する場合がありますため注意が必要です。

イ 「玉林」の収穫

未熟果（緑色果）を収穫すると食味が劣るので、果面全体に果点が浮き上がってきた果実から2～3回に分けて収穫して下さい。果皮色が全体に黄色みを帯び、がくあ部付近にやや緑色が残っている状態の 때가 収穫適期です。果面から緑色が消えた果実は貯蔵性が低いので注意しましょう。

ウ 「ふじ」の収穫

収穫期は、着色や蜜入りの状況とともに食味を確認し総合的に判断しましょう。また、蜜入り指数2以上の完熟果実を収穫します。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア モモせん孔細菌病

9月8日付で福島県病虫害防除所より病虫害発生予察注意報が発表されています。越冬伝染源密度の低下を図るために、秋季防除を2回実施しましょう。なお、新梢葉や果実での発生が多かったほ場では、落葉前までに3回目の秋季防除を実施して感染を防止しましょう。

イ ナシ黒星病

翌年の越冬伝染源密度を低下させるため、秋季防除を徹底しましょう。また、被害落葉は翌年の伝染源となるので、落葉処理を実施しましょう。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。